

そっ たく

啐啄

令和3年3月1日刊行 No.18
編集・発行 大島町教育委員会
教育文化課事務局
TEL04992-2-1453
題字「井島 吉春」

新図書館への思い ―未来を創造する図書館―

教育長 谷口 淨

大島町の新しい図書館を備えた建物が、令和2年9月末に完成し、令和3年2月1日の新図書館開館に向け準備を進めてまいりました。暫くの間、町の図書館を閉館していたこと、図書館に訪れても引越しの準備や図書の整理作業のため落ち着いて図書の閲覧などもできなかったことも含め、改めてお詫び申し上げますとともに、住民の皆様の御理解と御協力に対しまして心より感謝申し上げます。

2月1日は通常であれば月曜日の休館日ですが、新図書館のオープン初日としておりましたので、開館とさせていただきます。本来ならオープニングセレモニーを華やかに行いたかったのですが、コロナ禍の緊急事態宣言が出ていることもあり、せめて入館第1号の方々には何か記念になることをしたい、とのことから、三辻町長より花束と記念品の贈呈及び写真撮影を行いました。また開館に先立ち、小中学生には図書館が町のどこにあるのか、生涯学習センター・郷(建物全体)の機能はどのようなものがあるのかなど、利用するための事前学習を1月中に実施しました。

新図書館開館から一週間の利用実績は、登録者(貸出しカード作成)数401名、貸出し冊数1,369冊の利用がありました。これは今までの登録者の1年分に匹敵する数に及びます。物珍しさも手伝ったのかも知れませんが、それだけ新図書館が期待され、待ち望んでいた結果と感じています。

最初の大島町図書館は、昭和33年に現吉谷公園内に設置され、これまで幾つもの変容を経て現在に至りました。昭和40年の元町大火後は町役場の建物に隣接した2階に昭和44年に図書館が増設されました。更に昭和57年には町役場と開発総合センターが建設されることに伴い、旧元町小学校の一部に間借りする形で移されました。昭和59年からは、旧生活館に場所を移し約37年間運営されてきました。前の図書館は建物としても古く、狭く、暗く、駐車場も無く、とても良い環境とは言えませんでした、そのような中でも歴代の司書さん達の努力で今日まで繋いできました。こんなエピソードもあります。もう20数年前の話になりますが、私が教育委員会の事務所にいたとき、当時の町長が「今から図書館を見たい」と言われ、「これはチャンス」と思い図書館へ案内しました。町長はグルリと書架を見廻した後帰ろうとしましたが、「ここで帰してなるものか」と思い、「ちょっとこちらをみてください」と背中を押すようにしてトイレを見てもらった。照明は暗く、臭いも強烈でいわゆる悪臭である、空中には複数の虫が飛び、床には何やら這えすものがある。便器も和式で水洗ではないため暗い穴の中から何かが…という状況であり、小学生はとても入っていけない。用を足すには勇気がいる、しかしその前にチビッてしまっただけでは元も子もない。「では、どうしているの!」と聞くと、そのときの回答では、「近所の商店のトイレを利用(ありがとうございました)していた」と聞いていたことも町長に伝えた。少し強引なところもあったが、子ども達のためには思い致し方なかった。町長からは「分かった、もう、もう分かったから」との言葉を貰い、その後水洗トイレに改修することが出来ました。

図書館の在り方によっては、自治体、地域の文化度のレベルを計る物差しでもあると言えます。他の地域を訪れ、その図書館がどのようなものであるかで、文化の度合いや「力」の入れ具合が

計れます。建物の古い新しいではなく、中身の充実が問題になります。大島も建物としては立派な建物になりましたが、これからは蔵書を増やしていくことと、図書館を利用して何が出来るか、企画やイベントを通して老若男女、島内外の方々とも文化の交流を図っていくことはとても重要で意義のあることだと考えています。図書館は、ただ本を借りるための場所ではなく、人びとの夢を実現するための孵化器のような役割を果たしていくための場所でもあり、学びを深めることのできる重要な施設、全島的な生涯学習を推進するための学びの拠点、知の拠点であり、図書館活動を推進することは、子どもの将来の生涯学習活動のきっかけに繋がることと、図書館で学んだ子ども達が、20年後30年後に子どもが生まれ、子どもと一緒に図書館に戻ってきてくれる。久しぶりの図書館では、「懐かしい」「これ読んだ！読んでもらった」という声も聞くことができます。親から子へ、子から孫へ、図書館を利用する人の連鎖が始まっていきます。いい図書館があれば自然と使ってくれるようになります。人々や子ども達が社会に向けて飛躍していくためにも図書館は踏み台としての役割を担う所でもあり、ときには一冊の本が人生に大きな影響を与えます。また、お役所は敷居が高いとよく言われますが、図書館は敷居が低い所でなければならないと思いますし「誰でもが親しみをもって訪れ、知的文化を創造する故郷」であってほしいと思います。生涯学習センター・郷という名前も、生涯を通して学び続け、将来どこの地においても、図書館で学んだことが、知識の郷となり、心の故郷になってほしい、との願いで命名されました。図書館は皆様のご利用されることを、両手を広げて待っています。

※ お願い

蔵書の充実而努力していきませんが、書架の半数が空いています。東京都の中央図書館や個人の蔵書からも寄贈していただいています。目標は7万冊(現在約3万8千冊)を目指していますので皆様のご理解ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(連絡先：2-1453 社会教育係)

ジオパークと学校教育

教育長職務代理 山田 三正

令和3年2月伊豆大島ジオパークは再認定を受けました。少し細かくいうと、大島を礎にしたジオパーク活動が、日本ジオパークネットワークからこの4年間の諸活動と今後の活動についてを評価され、継続して認定されたというものです。関係者・地域の方々の諸々の尽力の結果と思います。ジオパーク推進委員会教育文化部会長として心から感謝いたします。

大島町では学校教育として、地域学習(故郷・郷土学習)、地学の教育、自然環境教育、防災教育、大島活動など多様な教育を展開しています。

内容は大島にある地形・地質と自然・文化資源を結びつけて、地球・大島と人間との関係を歴史的・総合的に示しつつ、大島の資源を活用して教育、人材育成、地域貢献などで、持続可能な発展を進める活動をしています。

繰り返すと、ジオパークの活動とは、地形・地質遺産の保全と経済活動の両立を目標に、ジオツーリズムによって、地域の持続可能な発展を実現していくものです。〈ジオパークの理念です〉

その中で学校教育は、児童生徒が保全すべき地域資源の価値を知り、誇り、それらを他者に伝えることを原動力に、持続可能な方法を考え、地球・地域振興に参加していく人材の育成を考えます。教育は保全やジオツーリズムと並びジオパークの活動の大きな柱の一つです。

さて、以前ジオパークの教育は広義の地域学習と見なされてきましたが、2017年度「持続可能

な開発」が改めて意識されることとなり、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題解決に向けての教育を考えることとなりました。「持続可能な開発のための教育」は Education for Sustainable Development の訳で、E S Dと頭文字で略されています。

ESD とは、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれにより持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

学習指導要領ではE S Dを理念的基盤として位置付け、これらの視点をもった・沿った教育がもとめられています。大島町学校E S Dには、ジオパークの見方・考え方でもある「ジオ（地域）・エコ（環境）・ひとのつながり」を学び、科学的に調査・分析し、活用した生活と将来の社会づくりを担う人材育成が目標にあります。

本紙面は堅い話になりました。

が、大島はおもしろいです。大島は深いです。大島をもっと知るとますます大島が好きになります。大好きな大島を安全安心の島、そして活気あふれる島にしましょう。是非各校の実践を参観・見学していただき地域でも共に推進していただければと思います。小さいお子さんとは家の周りの散策。ジオサイトと一緒にいく。子供たちの活動の話聞く。ジオパーク行事に参加するなど、知って、学んで、動きましょう。

*ジオツーリズムとは、ジオ（geo=地形や地質、景観）を知ることを通じて、水や食料、地域の成り立ちなどを理解し、これからの自然と人間の関わり方を考えることに役立てようとする新しい観光形態。

「合理的な社会」

委員 井島 吉春

前回、長男が大学の授業をリモートで受けていることを書いたが、結局一年次は全てオンライン授業だった。おかげで私自身も基礎科目を何十年かぶりに復習することができたし、長男の勉強の様子を間近で見ることでもできたので案外充実した一年だと感じた。長男本人はどう思っているのだろう。

昔の学生と今の学生の学び方の違いは一概には言えないがこの一年で気づいたことは字を書く必要があまりないな、パソコンやスマートフォンでなんでも出来てしまうものなのだなあと時代の移り変わりを切に感じた。提出するレポートは全てパソコンだし、先生への連絡もキーを押せば済んでしまい手書きする必要がないのである。

私は日常的に筆やペンを普通に使い毎日必ず文字を書く。一般の人たちよりもかなり多くの量の字を書く。硯で墨を磨り筆で字を書くことになんの抵抗もないし、ボールペンなど色々な筆記具を使うことも苦にならず、字を書くことが特別なことではないが、それはかなり時代遅れの人間なのかもしれない。

パソコン・スマートフォン全盛期の時代といえども字を全く書かないで済むわけではない。住所や名前を手書きしなければならない場面はまだまだあるし、聞くところによると万年筆や筆記具の売り上げはさほど落ちていないらしい。

国が印鑑の必要な書類を段々と無くしていく方向に舵取りし、サインつまり署名だけで良いとするらしい。私もハンコがいる場面で面倒さを感じることも多く、歓迎したい所だがそれならばせめて自分の住所や氏名ぐらいはしっかりと美しい字で書ける様にした方が良いのではないのか、美しい字で名前が書けて損することはないはずである。

習字ではなく鑑賞用の書道作品の場合、最後に落款と言って署名し印を押す決まりとなっているが、視覚的効果もあり作品によって押し方も違う。書道をやったことのある方ならわかると思うが

この印があるのとないのでは作品としての存在価値が全く違う。白と黒の中に朱の印が一つ入るだけで作品が明るくなり荘厳さが出てくる。これは美意識の問題だが今までの書類だって署名捺印すると朱色のおかげで引き締まって見えて、重みというか格段の重要性が増した様に思え神々しさや美しささえ感じたものだ。この白・黒・朱のバランスの美しさ美意識は、東洋人特に日本人の中に潜在的に持ち合わせていて、わびさびにも通じるこれらの観念は日本文化としてなんとか継承して欲しいと思う。日本人だからこそわかる感性なのだ。

人間はいかにして楽をするかということで文明が進歩していった面がある。電化製品などはその最たるものでなんの疑問もなく普通に使っている。当然私も使っており楽をさせてもらっている。毎日の暮らしの中で合理性を求め早くて便利な方が良くても多々あり、これも進化と呼べるのだろうが時には遠回りで手間暇かけた方が良くこともあるだろう。線引きは難しいが時間をかけて仕上がったものをじっくり見つめ直し心の中で咀嚼する、こういう余裕のある生活も大切だと思うがそれは時代に逆行している事なのだろうか。

最近の自分

委員 山本 忠夫

最近を上京することもほとんどなく、これといった趣味もないので休みの日は家でゴロゴロしています。コロナがなければ東京オリンピックが開催され、雰囲気だけでも見に行くのが楽しみでした。1964年の東京オリンピックが4歳の時。まったく覚えていない。だから2020年がオリンピックを生で見る最後のチャンスだなと思っていました。

でも残念ながら開催延期されたものの、今のコロナの状況では開催の可能性はかなり低い、と思ってしまう。悔しいのでオリンピックってどんな思想があったのかを少し調べてみました。近代オリンピックを作ったのは、クーベルタン男爵。

有名な言葉は「オリンピックは参加することに意義がある」ですが、もう少し詳しくすると、「オリンピックで最も重要なことは、勝つことではなく参加することである。同様に、人生において最も重要なことは、勝つことではなく奮励努力することである。肝要なのは、勝利者になったということではなく健気に戦ったということである」とありました。

さらにいうとこの言葉はクーベルタン男爵で作った訳ではないことが分かりました。「1908年ロンドンオリンピック。本大会では、ホスト国で世界に君臨していたイギリスと急速に国力を伸ばしていたアメリカがお互いをライバル視し、険悪な関係になった。こうした状況を危惧したペンシルベニア大司教（アメリカ選手団に随行していた）のエセルバート・タルボットは、「オリンピックにおいて重要なのは勝利することよりむしろ参加したことであろう」と説教で語り、これを知ったクーベルタンはオリンピック精神の表現としてこの言葉を引用するようになった。」（ウィキペディアより）

スポーツは多くの人に希望を与える反面、勝つことばかりに度が過ぎると争いごとを引き起こす。それは絶対に見たくないシーンです。

私がオリンピックを見る時、負けた選手がどんな態度をとるのかなぁ…という姿を見ます。4年間自分を奮い立たせて頑張ってきて負けた時に、相手を称えるような姿を見てしまうと本当に心が動きます。自分の不甲斐なさに堪え、受け入れ、再び立ち上がろうとする姿に励まされる自分がいます。生きるって思い通りにならないものだから…。結局、人は人との交流の中で励まし合って生きていく、ということなのでしょう。

今はコロナで仕方がないことなのかもしれませんが、その「人との交流」に制限がある。そんな社会が正常な訳がない。一日も早くコロナ感染が終息に向かうことを心から願っています。

感謝の気持ち

委員 宮本 里香

先日、車に乗っていると前方から、対向車のバイクが止まりました。通りすぎる時に横断歩道を低学年の小学生が渡ろうと車がこないか確認していることに気がきました。「ごめんなさい」私は一時停止せずに通りすぎてしまいました。私が通りすぎると、バイクに乗っている人がニコニコしながら、どうぞと小学生に手招きをして渡らせていました。その時のバイクの方の笑顔と姿に心が温かくなりました。

2016年の調査開始以来、「信号機のない横断歩道」の一時停止率が全国で最も高いのが長野県で、2019年は車の一時停止率は68.6%だそうです。ドライバーには運転免許更新時の講習など歩行者保護について教育し、幼児段階では交通行動の基本となる「とまる」「みる」「まつ」を繰り返し教え、小学生では自分自身が見て考えることを身に付けてもらえるようにしています。保育園では散歩をする際、横断歩道で車が止まったら先生がお辞儀をしている姿を子どもたちが見ているでしょうし、小学生になると、お辞儀をして渡り、中学生、高校生も道を譲ると挨拶をする。感謝の気持ちを示す子どもたちの姿を目にしたドライバーが横断歩道を渡ろうとする人がいたら必ず止まってあげようという気持ちになる好循環を生み出しているようです。車が止まってくれたら、ドライバーに頭を下げて挨拶しましょうと指導しているわけではなく、上級生の姿になって下級生も自然とやるようになり、それが受け継がれていき、当たり前前の行為となったようです。この習慣は長い年月をかけて根付き、子どもたちが自発的に実行し習慣化していると推測できるという記事を目にしました。昨年、たまたまテレビで、長野県の生徒たちが「止まってくれて、ありがとう」というプラカードなどをもち、信号機のない横断歩道に立って、ドライバーに感謝の気持ちを伝えている姿が放送されました。本当に素晴らしい取り組みだと感心しました。

私が小学生の時、校長先生が通勤途中、横断歩道で一時停止をした時の、他校の子どもたちの挨拶がすばらしく感動したのでしょうか。その姿を朝礼でとても褒めていたことを思い出しました。大島でも学校が統廃合され、登下校の子どもたちの姿を見る機会が減りましたが、たまに気持ちのいい、挨拶をしている子どもを見かけることがあります。大人、子どもに関係なく、相手がしてくれた行為に、有難うという気持ちを示す会釈の大切さを改めて感じました。

※啐啄（そったく）とは

鳥の卵が孵化しようとするとき、殻の中で雛鳥が外に出ようとして内からコツコツ殻をたたき音を「啐」といい、母鳥がその孵化の瞬間を悟り、殻の外をコツコツつき破ることを「啄」といいます。この啐と啄の呼吸が合うとうまく殻が割れ、丈夫な雛が誕生しますが、どちらか早すぎても遅すぎても良い雛は生まれません。教育も教わる側の生徒と教える側の先生が、啐・啄同時である事が理想であ

【大島町教育相談室のご案内】

大島町教育相談室は、教育相談員・指導員・スクールソーシャルワーカーの5名体制で、子ども達のための相談対応、支援を行っています。

教育相談事業

不登校・いじめ・発達の遅れ・学業不振・非行など、子ども（小・中・高校生）のあらゆる教育相談について、本人や保護者及び学校関係者のご相談をお受けします。

適応指導教室「パレット」

さまざまな理由で学校に行きにくかったり、登校できないでいる小・中学生のための居場所です。一人一人に応じた体験活動や学習活動を行い、学校復帰に向けて気持ちを整えていくための支援をしていきます。

困ったり、悩んでしまった時は、迷わず（2-4544へ）直通電話へ連絡ください

【連絡先】大島町元町字丸塚 548 番 1 大島町生涯学習センター・郷内（2階）

電話：2-4544

メールアドレス：kyouikusoudan@citrus.ocn.ne.jp

※なお、来室される方は、教育相談員が学校訪問するなど不在の場合がありますので、事前にお電話にて確認のうえお出掛け下さい。

教育委員会カレンダー年間予定表

月	日	内 容	場 所
4	17	体育祭野球・バレーボール大会（中学生の部）	大島町野球場・一中体育館
5	16	体育祭バレーボール大会（婦人の部）	大島高校体育館
	22	体育祭ゲートボール大会	伊豆大島ゲートボール場
7	3, 4	大島オープンウォータースイミング大会	元町湯の浜
8	3	体育祭 水泳大会	弘法浜サンセットプール
10	10	体育祭レクリエーション大会 予備日 10月17日（日）	つばき小学校グラウンド
	31	体育祭 駅伝競走大会	泉津地域センター→陸上競技場
11	中	就学時検診	大島町生涯学習センター・郷
12	7	大島町立小中学校連合音楽会	開発総合センター2階大集会室
	下旬	雪国体験学習	新潟県上越市大島区（予定）
1	8	成人式	開発総合センター2階大集会室
	14	大島町立小中学校連合作品展 （18日まで予定）	開発総合センター2階大集会室
2	5	体育祭 野球大会（小学生の部）	差木地地域センターグラウンド
	中旬	大島町文化祭 芸能大会	開発総合センター2階大集会室
3	上旬	大島町文化祭 作品展	開発総合センター

（柔剣道大会・Jrスポーツフェスティバルにつきましては調整中）